

まるっと「永井の大念仏剣舞」

「永井の大念仏剣舞」が属する「風流踊」※1が、11月30日にユネスコ無形文化遺産※2に登録されました。永井の大念仏剣舞は永井に古くから伝わる民俗芸能で、国の重要無形民俗文化財に指定されています。その特徴や由来、見どころなどをたっぷり紹介します。

【問】歴史文化課 ☎639-9067

※1 風流踊とは 華やかな、人目を惹く、という「風流」の精神を体現し、衣装や持ち物に趣向を凝らして、歌や笛、太鼓、鉦などに合わせて踊る民俗芸能。除災や死者供養、豊作祈願、雨乞いなど、安寧な暮らしを願う人々の祈りが込められている

※2 ユネスコ無形文化遺産とは 「無形文化遺産の保護に関する条約」により、国際的な保護が必要とされ、口承による伝統および表現、芸能、社会的慣習、儀式および祭礼行事、自然および万物に関する知識および慣習、伝統工芸技術で、国内で目録を作成し、保護措置を取るべきとしたもの ※参考 文化庁ホームページ

特徴1 華やかな衣装

幽玄さが醸し出る、色鮮やかな衣装が特徴。細部まで丁寧に作られています。模様は役割により異なり、踊り手は、頭に花をのせた妻折笠、手には手差し、足には黒足袋、白鼻緒の草履、青や白を基調とした浴衣に5色の帯を付けます。右袖に腕を通さないため、内側の襦袢の色鮮やかな模様が見えることから、いっそうあでやかな姿になります。



極楽浄土に咲いているといわれる蓮の花の絵が描かれた衣装は「ふくべ振り」で着用するもの

太刀は青、扇と唐団扇は白を基調とした煌びやかな装い

華やかな踊り手の衣装とは異なり、落ち着いた雰囲気のある衣装も。控え太鼓や笛は、花の付かない妻折笠、藍色を基調とした着流しを着用

特徴2 魂を導く踊り

亡くなった人の魂を極楽浄土まで導く「永井の大念仏剣舞」。音で道順を示し、灯りを照らしながら悪魔や気持ちに入り込んでくるさまよいを払いのけます。以前はお盆の8月13日に庭元を集まって「笠揃え」をし、上飯岡にある長善寺に踊りを納め、8月16日に家々をまわって踊っていました。

演目

道行→歩き太鼓
入羽→鉦張、ふくべ振り、太刀、扇、唐団扇の順に輪をつかって踊る。7演目
中羽→中踊り。7演目
引羽→7演目
笠振り→大笠振り

廻り踊→太鼓の周りをまわって曲打ちしながら舞う
礼踊り→踊り手が2列に並んで踊る
※基本は入羽、中羽、引羽の中から各一演目踊り、その組み合わせを「一庭」という



道行：太夫を先頭に、庭巻音頭（唄）を唱えながら歩き太鼓で入場します



ふくべ振り：蓮の花を染め出した衣装をまとい「ふくべ」を回しながら踊ります



歴史 かつては農家の長男を中心に伝承

約220年前の寛政年間(1789年～1801年)の頃に、庭元※である小笠原家の先祖が現在の紫波町南日詰から永井に移り住む際に、剣舞の巻物を持ってきたことが始まりです。かつては永井の農家の長男が中心となり伝承してきましたが、現在は、地域や性別に関わらず踊っています。

※能楽や華道などの家元と同義。永井の大念仏剣舞が伝えられている家



練習の様子。練習日は隔週日曜で、誰でも練習に参加できます

練習の見学・体験に気軽にお越しください。練習場所など詳しくは

永井の大念仏剣舞



ホームページ Facebook

保存会員の声

小学1年の時から6年間活動しています。みんな仲が良くて話していると楽しいし、衣装も華やかで気に入っています。保存会の雰囲気も練習も好きなので、ずっと続けていきたいです。

私を含め、兄弟4人全員が保存会員です。まだ全ての踊りを覚えているわけではないので、これから覚えていくのが楽しみです。これからもこの剣舞を広く皆さんに知ってもらいたい、という気持ちで踊っていきたくです。



八重樫 岬さん (永井23)



小笠原 成二さん (秋田県秋田市)

見どころ 「大笠」に注目!

◆大笠

台座の直径が約1.8m、重さが約25kgの「大笠」は、極楽浄土の象徴。中央に三階の仏堂がのせられ、4つの門が付けられています。門はそれぞれ、「梵心門」「修行門」「菩提門」「涅槃門」といい、仏教の世界では修行の段階を表すとされています。周りを囲う珠色の勾欄の下には、先端に「南無阿弥陀仏」の名号が書かれた軒花を差し込み、赤と白の幕で覆います。



◆大笠振り

念仏剣舞での大笠振りは、先祖の霊を呼ぶ行為。先祖の霊が、この門を順番に通り返ることにより、最終的に涅槃の境地に入り、鎮魂されるという意味があります。

ファンの声

剣舞を初めて見た小学生の頃の感動が今でも忘れられません。生の公演では、動画だけでは伝わらない迫力や臨場感を味わえます。まだ観たことがない人にこそ、ぜひ公演で観てほしいですね。



齋藤 直子さん (永井11)

深く知る 誰かに話したくなる豆知識

◆梅若丸の故事

平安時代の中頃、公家に生まれた梅若丸という男の子が、人さらいにさらわれてしまいました。そして人さらいと一緒に旅をしているうちに病気がかかってしまい、隅田川のほとりで亡くなってしまいます。12歳という若さで亡くなってしまった梅若丸の魂を供養するために始まったのが「大念仏」であるといわれています。

◆それぞれの役割(道具)意味



太夫：踊りの全体の代表であり、踊りの全てを統率します。

音頭あげ：先導役として太鼓に合わせ、念仏唄を歌います。

常太鼓：主に踊りの太鼓をたたきます。踊り手に演目を知らせる役割もあります。

控え太鼓：回向や念仏、大笠振りなどの太鼓をたたきます。時に常太鼓を助ける役目もあります。

中立：鉦、鼈、笛の担当です。それぞれの音は、全てのものに親しまれる音色であるといわれています。



ふくべ：松明を表しているといわれ、極楽浄土までの道を照らします。



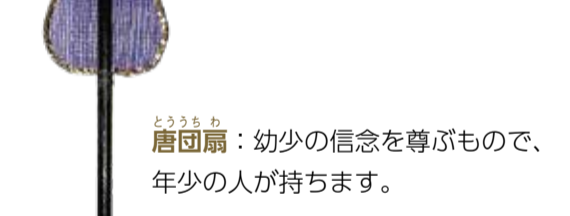
鉦張：踊りの先頭に立ち、手証を鳴らすことで道案内をし、極楽浄土まで導きます。



太刀：目に見えない悪魔を切り払います。



扇：目に見えない、さまよいなどを払います。



唐団扇：幼少の信念を尊ぶもので、年少の人が持ちます。

他にもたくさん!「盛岡の民俗芸能」

市内には永井の大念仏剣舞以外にも多くの民俗芸能があり、無形民俗文化財の指定を受けているものも数多くあります。各地域で伝承される民俗芸能は、それぞれ独自の由来を伝えているため個性があり、何度見ても面白いものです。

神楽：神職が行う「社風神楽」と、勇壮で激しい動きが特徴の「山伏神楽」があります。

田植踊り：農民の稲作儀礼と深く結びついた芸能です。獅子(鹿)踊り：獅子や鹿をかたどった頭をかぶり、供養や五穀豊稔の祈りを込められます。

剣舞：阿彌陀堂を据えた大笠を頭の上ののせて踊る笠振りが特徴の大念仏剣舞と、大笠を持たず、太刀を巧みに振りかざしながら勇壮に踊る高麗剣舞があり、永井の大念仏剣舞は、前者に分類されます。

伝統さんさ踊り：市内各地域に伝承。8月の盛岡さんさ踊りパレードで踊られる統一さんさ踊りの元となる踊りです。



山岸獅子踊保存会



三本柳さんさ踊り保存会

民俗芸能のPR動画はこちら ▶



民俗芸能に触れてみよう!

もりおか郷土芸能フェスティバル

【日時】2月26日(日)10時～15時

【場所】盛岡劇場(松尾町)

【費用】前売り800円・当日1000円

※中学生以下無料

【出演団体】9団体

【広報ID】1025596

市長コラム



1月15日に行われた「永井の大念仏剣舞」ユネスコ無形文化遺産登録を祝う会にて小笠原副会長(左)と

待望のユネスコ無形文化遺産登録、誠にありがとうございます。盛岡で初となるこの偉業に、市民の皆さまも誇らしく思ったことではないでしょうか。登録は、保存会の皆さまの努力のたまものであり、深く敬意を表するとともに、今後のさらなるご活躍をお祈りいたします。盛岡には見ごたえのある民俗芸能が他にもたくさんあります。今月26日には郷土芸能フェスティバルが開催されますので、まずは直接見て感じ、その魅力に触れてみませんか。ぜひお越しください。そして、「自分も演じてみたい」と思ったら、各保存会へお声掛けください。

盛岡市長 谷藤 裕明